

## 文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」いよいよオープン 美術展 2018年夏・公式企画ラインナップのご案内

日仏友好 160 年を記念した日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」がいよいよオープニングを迎えるこの夏、国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、フランスを代表する美術館とも連携して、パリにおいて下記のとおり大規模な展覧会を開催します。

メディアの皆様におかれましては、この機会に是非貴媒体にて本展覧会をご紹介いただけますよう、何卒宜しく願いいたします。

### ■「深みへー日本の美意識を求めてー」展

ジャポニスム 2018 においてパリで展開される複数の展覧会プロジェクトのコンセプトを総合し、あわせて 2018 年に世界に発信すべき「日本の美意識」を紹介する展覧会です。

パリの中心に位置するロスチャイルド館（Hôtel Salomon de Rothschild）を会場に、歴史と現代を横断し、その対話を通じて、創造的伝統と、未来に向けての革新的創造を提示します。

- 会期：2018年7月14日（土）～2018年8月18日（土）
- 会場：ロスチャイルド館  
（Rue Berryer 11、パリ市 8 区）
- 主催：国際交流基金
- 協力：キヤノンマーケティング株式会社、日本航空株式会社、MHD  
モエ ヘネシー ディアジオ株式会社、恒川フェルト工業株式会社、華陽堂
- イニシャル・コンセプト：津川雅彦（ジャポニスム 2018 総合推進会議総括主査）
- キュレーター：長谷川祐子（東京都現代美術館参事・東京藝術大学教授）

#### ○出品作品・作家等一覧（敬称略、順不同）

縄文土器、円空、白隠、仙厓、葛飾北斎、柴田是真、田中一村、李禹煥、宮田亮平、原口典之+田中泯、杉本博司、SANAA、須田悦弘、大巻伸嗣、ANREALAGE+名和晃平|SANDWICH、真鍋大度、澤田真一、平岡良、森山未来+ジュスティーン・エマール、ポール・ゴーギャン、パブロ・ピカソ、アンヌ・ロール・サクリスト、「独客」田中一村映像プロジェクト、知里幸恵編訳-アイヌ神謡集-展示プロジェクト



ANREALAGE, collaboration with Kohei Nawa | SANDWICH Inc.  
ANREALAGE 2017-2018 autumn & winter collection "ROLL"



国宝＜火焰型土器＞十日町市博物館蔵  
前 3,500～2,500 年

### 報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

## ■ 展覧会企画趣旨

極東にあり、北から南へわたる気候と四季の変化に富んだ列島である日本の芸術文化は、自然と豊かな関係を持ち、そして他の場所から隔てられている事に依って、独自の文化の受容と展開をしてきました。

日本の美意識、思想の特徴は、静と動、男性性と女性性、善と悪、形式とカオス、永遠と一瞬、バロックとミニマル、伝統と現代、などの異なる／対立する要素を包含し、その間を揺れ動きながら「二つで一つ」として共存させている動態の中にとらえられるといえます。

その背景には、主体と客体や自然と社会を分離する、西洋の人間中心主義とは異なり、自然、環境と一体となりすべてのものに靈性をみとめていくアニミズム的思想があります。これはひとつは、他者の文化を取り込むとき、批評的フィルターを経る事なく、模倣と遊び心や好奇心による自由選択を通して、《日本化》する方法につながります。

また西洋のように空間の中の秩序や形といった「実体的な美」でなく、より時間性と関係性を重視した「状況の美」を特徴とします。外の文化の自由な取り込みと、場に対して開かれた関係性を重んじる日本の文化は、生命活動や細胞の新陳代謝にも似たダイナミズムと活気をもっていきます。

テロや移民問題に悩み、人間が地球をとりまく環境のほとんどをコントロール下におく「人新世」と呼ばれる現代。解決の方向を模索する現在のフランスーヨーロッパにおいて、本展は現在と過去、異種の要素の間の共存、共創を示唆する、日本から発信するステイメントといえましょう。本展タイトル「深みへー日本の美意識を求めて」、は従来の日本の美に対するクリシェを超えてよりその本質、深みへと沈潜していただきたいという観客への呼びかけが込められています。そしてその深みにはいるために、展示空間には多くの異なるものの創造的関係を体験していただくための対話的構成がなされています。天井画やシャンデリアによって装飾された 19 世紀フランスの華麗な館に置かれた 5000 年余の時をわたる作品群。空間デザインに建築家の SANAA を迎え、透明でミニマルな浮遊感に満ちた展示は、作品の出自を無化し、対象との純粋な出会いの場に観客を導きます。

歴史的な作品と現代作品を併置、また日本と西洋の作家を合わせて展示する歴史横断的な、国際的な対話的構成は、日本の美に対して、新たな視点と発見をもたらします。各部屋は次の 10 のテーマに基づいて構成され、25 人の作家及びプロジェクトによる、100 余点の作品が展覧されます。そしてその根底を流れるものは「生命の表現」なのです。

### 10 のテーマ

「バロック・過剰」、「原初の創造のエネルギー・プリミティヴィズム」、「錬金術・自然の靈性を引き出す錬金術」、「引き算の美学ーミニマリズム」、「生命力の根源をもとめてー南へ」、「デジタル時代の風景画ー「環境」にふれる」、「“主体化”する風景/軽みの哲学」、「新生ー繰り返される再生」、「異種混淆、共生」、「無限の変容体」

19 世紀のジャポニズムが、世界や自然にむけての新たな見方や美学を示した第一弾のインパクトだったとすれば、本展は、第二弾として、2018 年の現在のパリ、そしてヨーロッパの人たちに、多様で刺激的な《関係性》の構築と、想像力の響き合いを見せることとなるでしょう。

長谷川祐子(本展キュレーター)



須田悦弘 朝顔 2014年

(c) Yoshihiro Suda / Courtesy of Gallery Koyanagi

---

### 報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

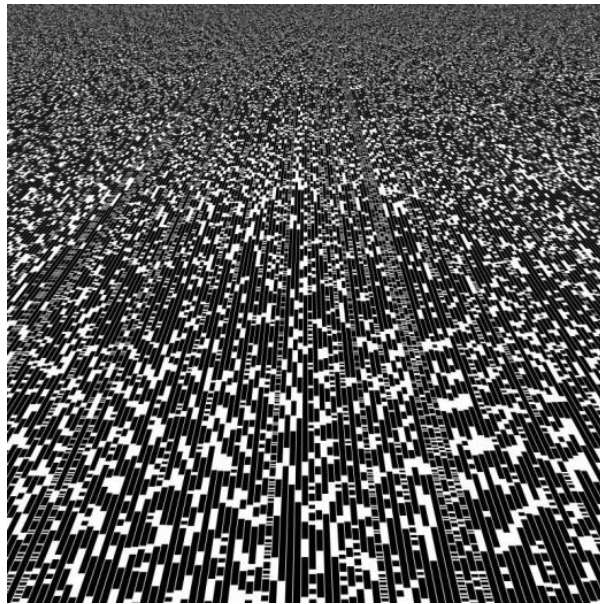
住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

## ■「池田亮司 | continuum」展

ポンピドゥ・センターが企画する展覧会「Mutations / Créations 2」の一環として行われる今回の展示は、<continuum>と題され、池田の2点の新作インスタレーションが世界初披露となります。黒の空間と白の空間からなるインスタレーションは、映像、音響、空間、知覚現象、数式が渾然一体となり、始まりも終わりもない、めくるめく没入体験を観客にもたらしことでしょう。

展示空間は、闇に浸された部屋 *code-verse* と白に満ちた部屋 *A [continuum]* に分割され、両者は、対立しつつ、補い合う二つの世界をなします。前者のインスタレーションでは、作家が「メタ・コンポジション」と呼ぶ試みが展開され、数理法則に則った抽象的な映像・音響データのめくるめく攪拌が繰り返されます。後者は、巨大スピーカー群によって構成されるサウンド・インスタレーションです。ここでは、展示室内を自由に歩き回ることによって、各々の方法で作品の音楽経験をj得て、いわば耳で聴くパフォーマンスへと誘われます。圧倒的な体験で私たちの知覚や認識を揺さぶる、この夏パリで必見の展覧会です。



©Ryoji Ikeda Studio

- 会期：2018年6月15日（金）～2018年8月27日（月）
- 会場：ポンピドゥ・センター  
（Place Georges-Pompidou, パリ市4区）
- キュレーター：マルチエラ・リスタ（ポンピドゥ・センター・ニューメディアコレクション主任学芸員）
- 主催：国際交流基金、ポンピドゥ・センター
- 協力：Almine Rech Gallery
- ・本展の開催にあわせ、Éditions Xavier Barral/Centre Pompidou よりカタログ（英仏語）が出版されます。

## ■作家紹介

池田亮司

1966年岐阜生まれ。パリ、京都を拠点に活動。音そのものが持つ本質的な特性とその視覚化を、数学的精度と徹底した美学で追求している。サウンドメディアと視覚メディアの領域を横断して活動する数少ないアーティストとして、音響、映像、物質、物理現象、そして数学的概念の精緻な構成を用いて、鑑賞者を包みこむようなライブ・パフォーマンス、インスタレーションを発表している。 [www.ryojiikeda.com](http://www.ryojiikeda.com)

ポンピドゥ・センター広報お問い合わせ先：Mr. Timothée Nicot, [timothee.nicot@centrepompidou.fr](mailto:timothee.nicot@centrepompidou.fr)  
TEL: +33- (0)1 44 78 45 79 FAX: +33- (0)6 99 35 50 05

---

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

## ■「Enfance/こども時代」展

最先端の現代アートを常に発信しているパレ・ド・トーキョーにおいて開催する、日本とフランス、ならびにさまざまな国のアーティストによる、「こども時代」をテーマにした日仏共同企画の現代アート展です。

3000 m<sup>2</sup>の展示スペースを使って繰り広げられる、20人近くの現代アートの作家やフランス工芸職人による大型作品の数々は、ラビリンスのように展開し、こども時代の空想、神話、そして成長の問題などを問いかけます。また会場正面玄関脇の屋外スペースには、Amabouz Taturo(旧名 西野達)による新作の大型インスタレーション「A Doll's House」が展示されます。



Amabouz Taturo

《A Doll's House》完成イメージ図

©AtoY

○会期：2018年6月22日（金）～2018年9月9日（日）

○会場：パレ・ド・トーキョー

(Avenue du Président Wilson 13, パリ市 16 区)

○主催：国際交流基金、パレ・ド・トーキョー

○特別協力：ベタンクール・シュエラー財団

○協力：日本航空株式会社

○キュレーター：ヨアン・グルメル、サンドラ・アダム・クラレ（共にパレ・ド・トーキョーキュレーター）

○アソシエイト・キュレーター：金澤韻(インディペンデントキュレーター)

○日本人参加作家：Amabouz Taturo、栗林隆、鈴木友昌、宮崎啓太、毛利悠子、森千裕、横山裕一（五十音順、敬称略）

## ■キュレーター・ステートメント

私たちの子ども時代はそれぞれ違います。例えば、1970年代の関東地方に生まれた私の子ども時代と、敗戦の翌年に東北地方で生まれた父の子ども時代はまったく違います。私たちはみな、世界のいろいろな場所で、異なる子ども時代を経験するのです。そして、子ども時代が違うということ以上に、子ども自体がそれぞれ違います。子どもは、社会、文化、歴史、そして生物学的側面が複雑に混ざり合ったハイブリッドです。

この展覧会はある一つのストーリーとして編まれており、子どもの本や遊びによく見られる感情や原形が基盤にあります。同時に別の特徴にも気づくはず。それは異なるイメージや素材の組み合わせによる表現です。これは現代性に対して鋭い感性を持った現代美術家たちによって捉えられた、今、2010年代後期の子ども時代の象徴とも言えるでしょう。こういった作品群から、人々は日常的な感覚を離れた、豊かさ、新鮮さ、クリエイティブさを味わうはず。私たちが万人に共有された一つの「子ども時代」というものはないと知るとき、子ども時代とは、感じやすい心、尽きない創造力、そして限界のない想像の自由がもたらされる時と場所への、私たちの欲望と願いなのだと思います。パレ・ド・トーキョーにその時空間が出現するよう、展示を企画しました。

金澤韻 / アソシエイト・キュレーター

## ■参加作家からのコメント

私のアート活動は、子供の頃に熱中した美術に対する興味と「秘密基地」作りを今も続けていると言えるかもしれない。

「子供時代」というテーマをあえて素直に解釈し、私は子供の時のように無邪気に遊ぶことで作品を構築しようと考えた。子供時代には意識しなかったアートという概念を排除するかたちで制作していく。パレ・ド・トーキョーというアートスペース＝「芸術作品を見に来る場」において、子供が作ったような作品を展示することで、逆に観客は想像力をかきたてられるのではないだろうか？ 童心に戻った私は体に染み付いたアーティストの感覚ではなく、子供の頃に憧れた建築家のように自由に家の間取りと家具を決め、部屋の壁に幼いテクニックで絵を描く。このドールハウスは、規模は大きくなったとはいえ私の子供時代の「秘密基地」のようなものだ。

しかし、「子供時代」の行為によって完成されたこのドールハウスは、屋根には大きな穴が開き正面には壁がなく、容赦なく雨や風が入り込むことになる。家に守られた子供が社会にさらされるように、外気にさらされ展覧会期間中に劣化していくこのドールハウスは、社会の現実と直面し失われていく子供心を表していると言えるだろう。「子供時代」という展覧会が終わる頃、この作品は「子供時代」の痕跡を保っているのだろうか？

Amabouz Taturo

## 報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

## ■「井上有一 1916-1985 -書の開放-」展

戦後日本の伝統美術の前衛グループの中で、最も創造的な活動を展開した一人である書家の井上有一（1916～1985年）。本展は、戦後まもなく世界的に高い評価を得た数少ない書家である井上の代表作を中心に、紙と墨による簡素な材料、技法によって生まれる豊かで多様なモノクロームの世界を紹介し、日本の伝統文化を世界の芸術においてどのように位置づけていくのかを巡って腐心した井上有一芸術の核心に迫ります。

○会期・会場：

① 2018年7月14日（土）～2018年9月15日（土）

パリ日本文化会館

（101 bis, quai Branly, パリ市 15 区）

② 2018年9月29日（土）～2018年12月17日（月）

トゥールーズ・ロートレック美術館

（Palais de la Berbie, Place Sainte-Cécile, アルビ市）

○主催：国際交流基金、トゥールーズ・ロートレック美術館

○特別協力：京都国立近代美術館

○協力：全日本空輸株式会社、株式会社ウナクトウキョウ、一般財団法人世界紙文化遺産支援財団紙守

○キュレーター：秋元雄史（東京藝術大学大学美術館館長・教授、練馬区立美術館館長）



©UNAC TOKYO, 撮影：伊藤時男

## ■展覧会紹介

井上有一は、1916年東京に生まれ、青山師範学校（現：東京学芸大学）を卒業後、小学校教員をつとめながら、画家を志して画塾や研究所にて学びました。1941年より書に転じ、1952年には同志とともに墨人会を結成、前衛的な書によって注目を集めるようになりました。墨人会は、書に限らず、洋の東西を問わず美術、哲学、文学と幅広い研究者や画家、書家などの作家の論考や発言を取り上げ、フランスのピエール・スーラージュをはじめ、海外の前衛的な現代芸術家との交信も盛んに行いました。墨人会結成後、井上は、当時ニューヨークで興ったアクション・ペインティングに呼応し、文字という形態を捨てた作品を書きました。しかし、1950年代後半、井上は文字本来の意義を再認識し、漢字を用いた表現に戻っていき、そうした作品が認められ、ドクメンタⅡやサンパウロ・ビエンナーレなどの国際美術展に招待出品するなど、国際的に活躍しました。そして晩年には、鉛筆やコンテによる作品を制作し、独自の境地を示しました。

近年、国内外で井上有一の芸術は改めて評価されており、国内では2016年に金沢21世紀美術館で過去最大規模の回顧展「生誕百年記念 井上有一」が開催され、海外ではニューヨークやドイツ、スイスなどでその作品が紹介されています。本展は、フランスで開催される初めての井上の回顧展となります。1989年に京都国立近代美術館で行われ、井上の芸術の評価を決定付ける展覧会となった「大きな井上有一展 YU-ICHI works 1955-85」を開催し、現在も井上の重要な作品の多くを所蔵する京都国立近代美術館から特別協力を得て、1956年から1985年までの約30年にわたり、井上有一が絶えず新たな問題意識を自己に課しつつ制作した作品約75点を通し、常に清貧に身を置き、全生命力を投入して生み出された、豪快で気迫あふれる井上の書の軌跡をたどります。また本展は、パリ日本文化会館での会期のあと、アルビのトゥールーズ・ロートレック美術館にも巡回が決定しており、フランス国内での関心の高さを窺わせます。

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

## ■ ルーブル美術館ピラミッド内特別展示 名和晃平作品 “Throne”

彫刻家名和晃平による、日本の伝統文化と先端テクノロジーを融合させた大型モニュメント作品をルーブル美術館にて特別展示します。加速度的に進化を遂げるコンピュータや人工知能などの存在が、やがて政治や経済に影響を与える“権力”や“権威”に置き換わるのではないかという予感を、「浮遊する空位の玉座」として表現した本作品は、約 6 ヶ月の間、ルーブル美術館のピラミッド中央において展示されます。



Throne

©Kohei NAWA | SANDWICH Inc.

- 会期：2018年7月13日（金）～2019年1月14日（月）
- 会場：ルーブル美術館・ピラミッド内  
（Rue de Rivoli, パリ1区）
- 主催：国際交流基金、ルーブル美術館
- 協賛：高砂香料工業株式会社
- 協力：株式会社 SANDWICH

## ■ 作家からのコメント

元々この作品は江戸末期までに極度に発達した各地の山車のリサーチに始まり、文化庁の「2020年に向けた文化イベント等の在り方検討会」で提案したイメージを、2017年の春に銀座GSIXの蔦屋書店のオープンに合わせて、“Throne(g/p\_boy)”という作品として発表した経緯があります。その直後、ルーブル美術館のピラミッドに新作を提案する機会に恵まれ、早速この作品のイメージを送ったところ、幸いにも採用され、形もコンセプトも新たに制作することになりました。ルーブル美術館には京都市立芸術大学の学生時代に初めて研修旅行で訪れました。特に古代美術や宗教美術に惹かれ、普遍性を持った彫刻の表現とは何か、を考えさせられました。一生に一度しかないような、ルーブル・ピラミッドでの展示の機会を大切にしたいと思います。

## ■ 作家紹介

名和晃平（彫刻家／SANDWICH Inc.主宰／京都造形芸術大学教授）

1975年生まれ。京都を拠点に活動。2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。2009年、京都に創作のためのプラットフォーム「SANDWICH」を立ち上げる。独自の「PixCell」という概念を軸に、さまざまな素材とテクノロジーを駆使し、彫刻の新たな可能性を拓いている。近年は建築や舞台のプロジェクトにも取り組み、空間とアートを同時に生み出している。

---

### 報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

## ■秋以降のジャポニスム 2018 展示ラインナップ

|                         |                   |                                     |
|-------------------------|-------------------|-------------------------------------|
| 「若冲—<動植綵絵>を中心に」         | 9月15日～10月14日      | (パリ市立ブティ・パレ美術館)                     |
| 「香取慎吾 NAKAMA des ARTS」展 | 9月19日～10月3日       | (ルーブル美術館<br>シャルル5世ホール<br>後援：木下グループ) |
| 「安藤忠雄」展                 | 10月10日～12月31日     | (ポンピドゥ・センター)                        |
| 「縄文」展                   | 10月17日～12月8日      | (パリ日本文化会館)                          |
| 「明治」展                   | 10月17日～2019年1月14日 | (ギメ東洋美術館)                           |
| 「京都の宝－琳派 300年の創造」展      | 10月26日～2019年1月27日 | (パリ市立チェルヌスキ美術館)                     |
| 「MANGA⇔TOKYO」展          | 11月29日～12月30日     | (ラ・ヴィレット)                           |
| 「藤田嗣治」展                 | 2019年1月16日～3月16日  | (パリ日本文化会館)                          |
| 「古都奈良の祈り」展              | 2019年1月23日～3月18日  | (ギメ東洋美術館)                           |

●5月15日から開催中の「チームラボー境界のない世界」展は、大好評開催中です。開幕から6月10日までの約4週間で、46,000人を超える入場者数を記録しています。



Exhibition View

teamLab : *Au-delà des limites* , 2018 , Grande Halle de La Villette, Paris © teamLab

## ■「ジャポニスム 2018：響きあう魂」とは

日仏友好 160 年の本 2018 年、両国政府間合意に基づき、芸術の都フランス・パリを中心に、大規模な日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」を開催します。パリ内外の 100 近くの会場を舞台に、約 8 か月間に亘り、美術展、舞台公演、映画、その他食や工芸など日本人の日常生活により密着した文化までを含め、さまざまな日本の芸術と文化を、古典から現代まで幅広く紹介します。会期を通じ、50 余りの公式企画の実施を計画中。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を前に、日本文化の多様な魅力をパリに、またパリを通して世界に向けて伝えます。

会期 : 2018 年 7 月～2019 年 2 月

事務局 : 独立行政法人国際交流基金

公式ウェブサイト : <https://japonismes.org/>

### 報道関係者からのお問い合わせ先 :

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当 : 浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所 : 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL : 03-6894-3201 FAX : 03-5413-3050 E-mail : [japonismes2018@ssu.co.jp](mailto:japonismes2018@ssu.co.jp)

【広報用画像について】

各展覧会にかかる広報用写真をご用意しております。希望画像の作品名ならびに掲載予定媒体名、掲載予定時期を明記のうえ、下記担当者までご連絡ください。またリリースに掲載されていない写真につきましてもお問い合わせください。

※ご使用時の注意点とお願い

- ・写真をご使用の際は画像クレジットを記載ください。
- ・トリミング、文字載せ、画像の二次使用はご遠慮ください。
- ・使用の際は確認のため、記事校正を PDF 形式でお送りください。

「深みへ」展



白隠慧鶴 円相図  
紙本墨画、45.0×54.0cm  
江戸中期  
永青文庫蔵



「草花に蝶と蛾」  
田中一村画  
絹本着色／額装  
昭和 40 年代  
155.2×73.2cm  
田中一村記念美術館蔵  
©2018 Hiroshi Niiyama

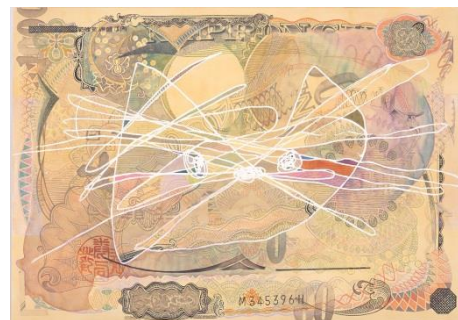


Co(AI)xistence © Justine Emard /  
Adagp, Paris 2018  
with Mirai Moriyama & Alter-  
developed by Ishiguro lab, Osaka  
University and Ikegami Lab,  
Tokyo University

「Enfance/こども時代」展



栗林隆  
Wolkenmeer (ボルケンメア) 雲海  
「water>|<wasser」 2012 年  
十和田市現代美術館 (日本)  
十和田の黒土、木材、霧、ミクストメディア 7x 6 x 10m  
Photo: Kuniya Oyamada  
Courtesy of the artist



森千裕  
お金の絵 (猫が散財)  
水彩、フェルトペン、ボールペン、鉛筆、紙、木製パネル  
98.0×140.0cm  
2009  
国立国際美術館蔵  
Courtesy of the artist

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp





毛利悠子

Moré Moré (Leaky): The Waterfall Given, 2015-17

リヨンビエンナーレ 2017, リオン現代美術館 (フランス)

ミクストメディア

Photo: © Blaise Adilon / Biennale de Lyon 2017

Courtesy of the artist



宮崎啓太

Collision of Species

車のパーツ、フェルト、紙、スピーカーシステム

2017

h150xw100xd80cm

private collection

Photograph : Luke Walker

Courtesy of the artist and rosenfeld porcini gallery



西野達

インスタレーションビュー

A Correnteza de Modernização (2013)

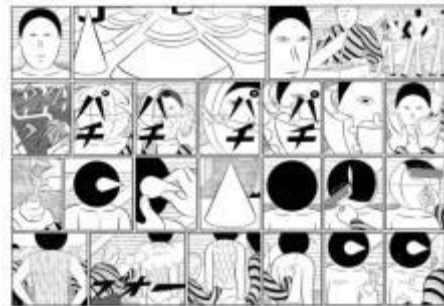
鉄、レンガ(煙突), 鉄、木(家)

h24m(煙突 20m, 家 h4m),

h4xw4xd3m(家), Ø250cm(煙突)

Photo : Joana França

Courtesy of the artist



横山裕一「ドレスアップ」より (「ニュー土木」収録、©イースト・プレス、2003)

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL : 03-6894-3201 FAX : 03-5413-3050 E-mail : japonismes2018@ssu.co.jp



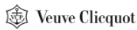
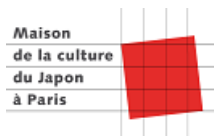
井上有一「愛」1972年 個人蔵  
撮影：伊藤時男  
©UNAC TOKYO



井上有一「月」1982年 個人蔵  
撮影：伊藤時男  
©UNAC TOKYO



井上有一「利潤拡大」1978年 京都国立  
近代美術館蔵 撮影：伊藤時男  
©UNAC TOKYO



報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp